

**R7.7.8 「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)公募説明会」  
「共創の場形成支援プログラム」に期待すること**

**文部科学省 産業連携・地域振興課 拠点形成・地域振興室長**

**平野 博紀**



文部科学省

# 共創の場形成支援プログラム：未来共創分野【新設】

<令和7年度採択（予定）>  
支援規模：37百万円程度/年  
支援期間：2年度（令和8年度末まで）  
支援件数：3拠点程度



## 背景・課題

- **地域の大学等は**、地域課題解決に資する地域特有のポテンシャルを活かした先端的な研究開発など、**地域経済の活性化や魅力ある地域社会・文化形成に寄与する、中核的な存在**。
- **地域の未来に向けて将来の産学官共創を牽引する**存在として、**挑戦的な研究への意欲、高い適応力等を有した若手研究者**の活躍を促進することが必要。将来の産学官共創拠点に向け、**産学共創のタネとなる独創的・挑戦的な研究成果の創出**や**優秀な研究者の地域の大学等への呼び込み等**も重要。

## 実施内容

### 【目的】

**独創的・挑戦的な若手研究者が、地域の課題解決に寄与するグローバル水準の研究成果を創出し、地域の未来に向けた産学官共創拠点を構築する。**

### 【事業のポイント】

- **独創的・挑戦的な若手研究者**（20～40代前半）が**PL（プロジェクトリーダー）として拠点の責任者**となり、学内外の研究者や自治体・産業界を含む**プロジェクトチームを構築**。
- 提案大学等が、地元企業や自治体等とともに、**地域課題を徹底的に深掘りし、研究計画をブラッシュアップ**。その際には戦略コンサルタントを活用するほか、JSTのPO（プログラムオフィサー）/アドバイザー等の助言を得る。
  - ✓ PLが若手であることから、経験豊かなメンターを配置し、拠点のマネジメント方法をはじめとする助言を行う。
  - ✓ 研究開発課題の具体化状況に応じて研究開発も実施。

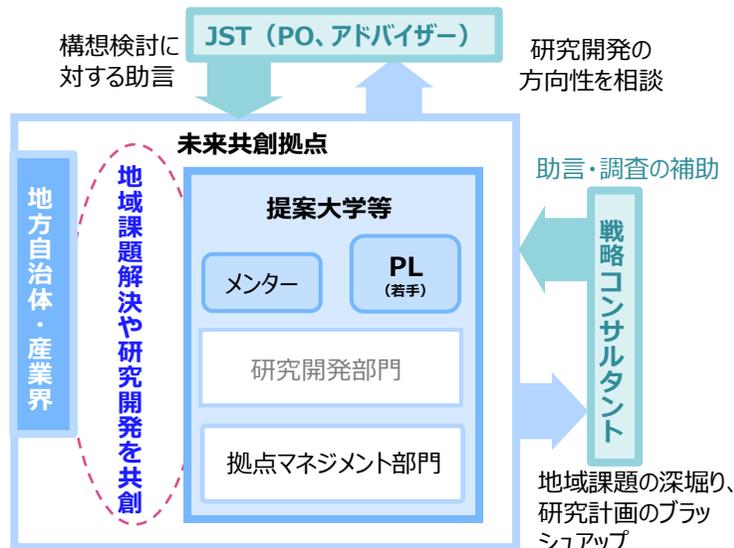
（2年度の支援後、昇格審査を経て、本格的な研究開発（5年度程度）を想定）

- ✓ 深掘り、ブラッシュアップした研究計画に基づき、若手研究者が課題解決に資する研究開発を本格的に実施。
- ✓ 提案大学等は、若手研究者を中心としたチームが研究に専念できる環境整備や産学官共創の支援を実施。

### 【独創的・挑戦的な若手研究者について】

- 筆頭著者の論文は20代後半に最も多い
- 新しい視点と柔軟性、挑戦的な研究への意欲、高い適応力、最新技術の活用力（データ解析やシミュレーション技術）、国際的なネットワークの構築力等の特徴を有する

### 【拠点体制】



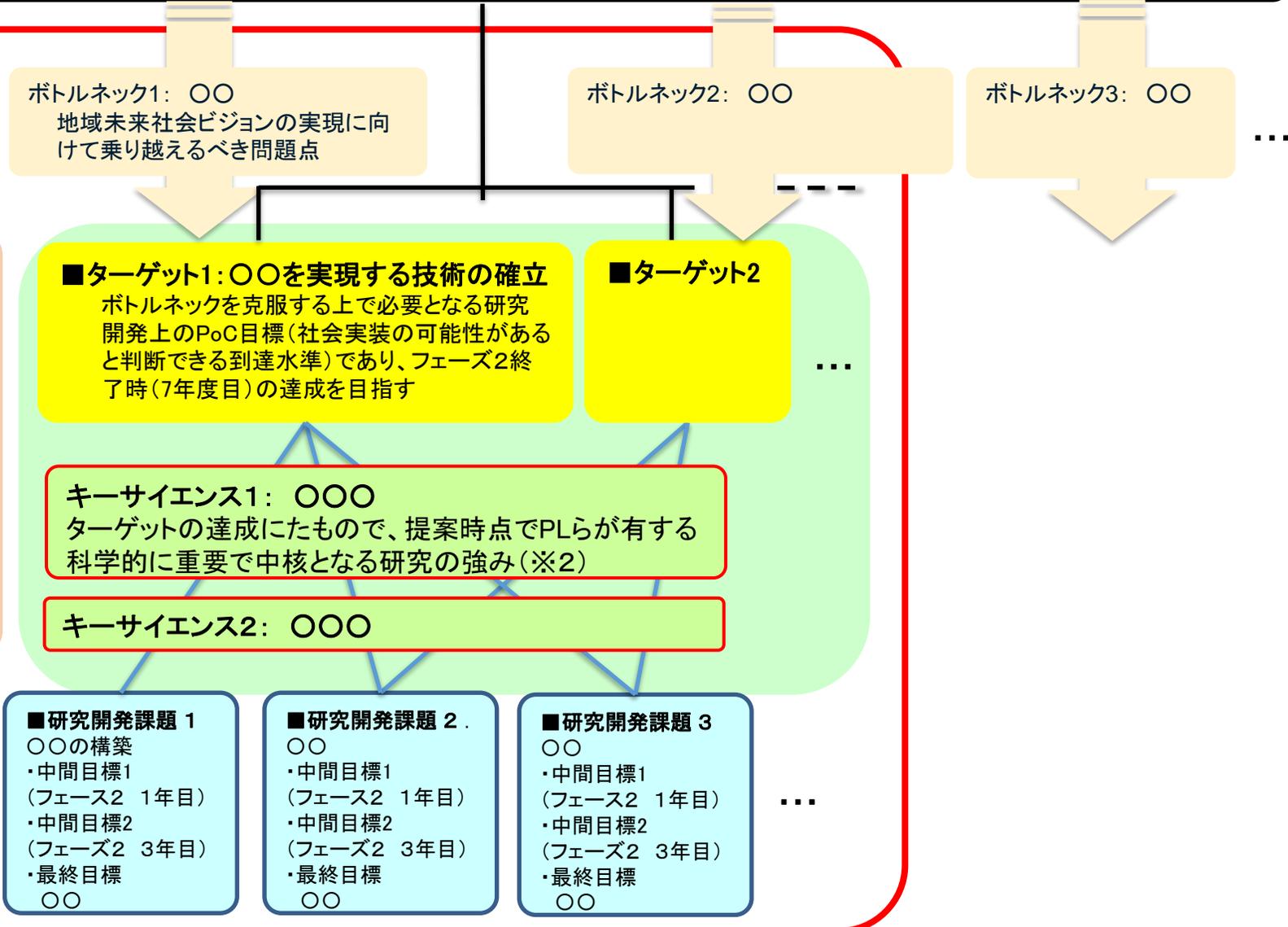
# 【プロジェクトの構成イメージ】

(※1) 地域: 参画する自治体(幹事自治体を含む)の行政区域

**地域未来社会ビジョン: ○○が○○する○○な社会**  
地域(※1)が目指す未来のありたい地域の社会像(地域の自治体が掲げている目指すべき姿や方針(中長期計画)等を基に設定)

## 拠点

■目指す拠点像: ○○の特徴を活かしながら地域の○○に貢献する拠点  
地域未来社会ビジョンを踏まえつつ、研究開発上の強みを活かし、どのように当該地域に貢献し、どのように他の地域等に波及させる拠点となりたいか



(※2) 全てのターゲットにキーサイエンスが対応していなくてもよい。 2



# 本事業の申請にあたって御留意いただきたいこと



## バックキャストによるプロジェクトの構成がなされているか

①地域が目指す未来の社会像に、  
どのように貢献する拠点をを目指すのか

▶▶ **地域未来社会ビジョン、  
目指す将来の拠点像の設定**

②地域の現状を分析した、  
未来の社会像とのギャップは何か

▶▶ **ボトルネックの特定**

③ボトルネックを克服するための具体的な  
目標（プロジェクト終了時のPoC）は何か

▶▶ **ターゲットの特定**

④ターゲット達成の中核となる  
研究の強みは何か

▶▶ **キーサイエンスの特定**

- ・地域の課題の分析がなされているか
- ・自治体と問題意識が共有されているか
- ・地域の課題の中で、大学等が果たすべき役割が明確になっているか

- ・特定したボトルネックの取捨選択、優先順位付け（拠点として貢献できるものか、事業規模の制約への考慮があるか）がなされているか

- ・ボトルネックを克服するために、他の代替手段と比較して効果的なものであるか
- ・プロジェクト実施期間を考慮したPoC目標となっているか
- ・大学等が持つシーズありきになっていないか

- ・PLらが真に強み（独創性・優位性）を持つ研究となっているか



# 本事業の申請にあたって御留意いただきたいこと



## 地域の課題解決に寄与するグローバル水準の研究成果を目指しているか

### 地域の課題に寄与

- 地域の社会課題の徹底分析によって特定されたボトルネックを克服
- PLらが強み（独創性・優位性）を持つキーサイエンスを活用

### グローバル水準

- グローバル水準で評価されるサイエンスとしての独創性・優位性
  - 類似の課題を持つ国内外の地域への横展開、他地域へのローカライズ手法の確立
- ※プロジェクト実施期間に限らず、拠点として将来的な展開に期待

### 「地域」と「グローバル」が矛盾しない独創的・挑戦的な研究成果の創出を期待

（地域課題であっても、それを解決するサイエンスがグローバルに通用しない既存技術とは限らない）

## 若手研究者のリーダーシップ、挑戦を支える体制ができているか

若手研究者をPLとしたプロジェクトチームの構築にあたっては、

- ・ 若手研究者の活躍促進や人材流動化を促進するシステム改革
- ・ 若手研究者を中心としたチームが研究に専念できる環境整備や産学官共創の支援
- ・ 地域で不足する人材の当該地域の資源のみに頼らない外部からの誘致

等の大学等における全学的な体制を整備することを期待



## フェーズ1でのプロジェクト実施計画の練り上げの構想を具体的に持っているか

フェーズ1の2年度間では、戦略コンサルタントを活用した客観的な視点からの検討を行い、フェーズ2に向けた実施計画の練り上げ等を実施

### フェーズ2に向けた実施計画の練り上げ

- 地域の社会課題の徹底分析、ボトルネックとなる問題の明確化
- キーサイエンスの独創性・優位性や社会実装に向けた課題等を踏まえた、ターゲットや研究開発課題の分析・特定
- キーサイエンスに関する国内外とのベンチマーク 等

※ 上記を踏まえ、ビジョンに立ち返った、ボトルネック・ターゲット・キーサイエンスといった要素の関係性の整理（プロジェクト実施期間も考慮した取舍選択、優先順位付け）、必要なステークホルダーの巻き込み・関係強化も必要

このように練り上げられた実施計画により、フェーズ2において、プロジェクト終了後の自立的・持続的な産学官共創拠点の形成を目指す



若手研究者のリーダーシップ、挑戦を大学等が支え、

産学官共創を牽引する研究人材の育成・輩出、

若手研究人材の人材循環の促進、

ひいては地域貢献と世界に通用する研究力の高い地域の大学等への

発展を目指す提案を期待。

人が変わる



大学が変わる



社会が変わる



**御清聴ありがとうございました。**